

令和4年度 長田小学校の取り組み

1 研究主題名

自ら進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～英語学習における指導の工夫を通して～

2 研究主題設定の理由

新学習指導要領では、外国語科・外国語活動について目標と内容、指導について示された。小学校段階では、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動を通してのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目指すことが目標となっている。中学年では、「聞く・話すこと」を中心とし、高学年では、「読むこと」「話すこと」「書くこと」を通して指導することになる。

本市においては、英語特区であることから、低学年における外国語活動の実施が可能であることから、低・中・高学年における指導の工夫や学びの連続性についての研究、児童が自習的にコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するため研究が必要であると考え。英語の授業でALTやJTEの英語に慣れ親しみ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通してコミュニケーションを図る基礎的な技能を身に付けるようにする。そのために必要な指導方法の工夫について研究を進めていく。

目標として、以下を掲げる。

- (1) 日本語との違いに気づき、英語を聞くこと、読むこと、書くことに慣れ親しみ、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けさせる。
- (2) 身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに自分の考えや気持ちを伝えることができるようにする。
- (3) 外国語によるコミュニケーションを図る基礎と資質を育てる。

3 研究の主な内容

(1) 外国語教育における主体的な学びの態度の育成

外国語教育における学びとは、外国語を学ぶことや外国語でコミュニケーションすることであることから、以下の4点に留意しながら授業を行っていった。

- ①外国語を学んだり、外国語を用いてコミュニケーションを行ったりすることに興味や関心を持たせること。
- ②生涯にわたって外国語によるコミュニケーションを通して社会・世界と関わり、学んだことを生かしていくことを意識させること。
- ③コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定したり理解したりして見通しをもって粘り強く取り組ませること。
- ④自らの学習やコミュニケーションを振り返り、次の学習につなげるようにすること。

(2) 聞くこと・話すことを充実させた授業づくり

発達段階に応じた各学年の目標を設定し、系統的・連続的な指導を通して、学習内容の定着を図りながら達成感を味わわせ、学習意欲を高めていくようにした。

【低・中学年】

- ・ ゆっくりはっきりと話す……外国語の音声や簡単な語句、基本的な表現に慣れ親しませる。
- ・ 「やりとり」を意識……まねることから、サポートを受けて身近で簡単な事柄についての伝え合いに転換し、できたという達成感を持たせる。

【高学年】

- ・ ゆっくりはっきりと話す…具体的な情報を聞き取ることと、短い話の概要を捉えることができるようにする。
- ・ 「やりとり」を意識……それまでの学習や経験で蓄積した英語で話す力・聞く力を駆使して、自分の力で質問したり、答えたりすることができるようにする。

【全学年共通】

- ・ 生活や習慣、行事等との関連……日本語も含めた様々な言語そのものへの理解や言語の背景にある文化に対する理解深められるようにする。
- ・ 活動・学習形態の工夫……ペア・グループ・学級全体と工夫することで、自己理解・他者理解を深め、コミュニケーションの楽しさを実感できるようにする。
- ・ 教材・教具の工夫……視聴覚教材やICTを効果的に活用することで、学習への興味・関心を高める。

(3) 指導方針

- ① 4月に全職員で外国語活動及び外国語科の進め方を共通理解し、ALT・JTE及び英語専科指導教員(FT)とティームティーチングによる指導について確認する。
- ② ALT・JTE及び英語専科指導教員(FT)も含め、各学年で年間指導計画を確認し、必要に応じて見直しを行う。
- ③ 全学年の児童がALT・JTEと交流できるよう、前半(4～10月)と後半(11月～3月)で担当学年を分けて指導に当たる。
- ④ 各学年で授業の打ち合わせの時間を毎週設け、ALT・JTE及び英語専科指導教員(FT)と共に授業の内容と進め方を確認する。
- ⑤ ALT・JTE及び英語専科指導教員(FT)と学級担任は、授業においてその役割を明確にすることで、児童の学習への意欲付けを行う。
 - ALT・JTE・・・コミュニケーションの相手、ネイティブ・スピーカーとしての英語力
 - 英語専科指導教員(FT)と学級担任・・・授業のコーディネーター及びデザイン

4 研究の成果と課題

(1) 学習指導案

< 教案 >

対象学年：4 学年 作成者：ALT 大石 理佳

What do you want? (3/4) Nov 18, 2022

4 年(24/35)

単元目標 (4 時間) :

- ・食材の言い方や、欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむ。
- ・欲しい食材などを尋ねたり要求したりすると共に、考えたメニューを紹介し合う。
- ・相手に配慮しながら、自分のオリジナルメニューを紹介しようとする。

前日 (11/24 木) までに、事前のご準備をお願いします。

HRT : サイトで作成したご自身のパフェの画像をご準備ください (例を示す際に、画像が必要になります)。

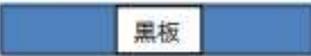
児童 : サイトで作成したパフェの画像が、各自ですぐに出せるようにご準備をお願いします。

(授業前に、該当のページを開いて準備しておいていただくと、スムーズに活動できるかと思います)

★めあて★ オリジナルパフェを紹介しよう!

扱う表現 : What do you want? | want (potatoes), please. How many? (Two), please. Here you are. Thank you. oranges/ pineapples/ strawberries/ bananas/ apples/ peaches/ grapes/ grapefruit/ cherries/ melons/ watermelon/ kiwi fruit/ mangoes/ passion fruit

過程	児童の活動	指導者の活動		◎ 留意点・教材
		担任 (HRT)	ALT	
あいさつ (5 分)	1. 今日のリーダーが前に出て、クラスに号令をかける。 2. あいさつ・ルールの確認をする (リーダーの質問に答える)	・リーダー (日直) を前に募る。 ・全員とあいさつ (※3つの質問) をし、※3ルールの確認をする。	・児童の支援を行う ・HRT と児童の支援を行う	
復習 & ウォームアップ (6 分)	3. 【Review】 Fruit Hint Quiz What am I?	与えられた色等の特徴 (ヒント) を基に何のフルーツかを当てるゲームです。 ヒントを1つずつ出し、答えが何か児童に guess (推測) させ、クラス全体で答えます。 例) ヒント① : I am a fruit. (わたしはフルーツです) ヒント② : I'm red. (赤いです) ヒント③ : I grow on a tree. (木になっています) TT/Question : What am I? (わたしは何でしょう?) Ss/Answer : (One, two と掛け声の後、クラス全体で) I'm an apple. と答えます。※果物の名前だけでも OK! <Answers> ① an apple → ② a banana → ③ a watermelon		PPT スライド

めあて Today's goal (7分)	4. 今日のめあてを確認する。 ①HRT/ALT の Small Talk を聞き、今日のめあてを予測する。 ②児童は分かったこと、予測しためあてを発表する。 ↓ HRT の説明を聞いて、児童は今日のめあてを音読する。	HRT: 今からりか先生と会話をします。何を話しているか、今日のめあてが何か当ててみましょう！ ↓ HRT/ALT/Ss: Three, two, one, action! (映画のワンシーンを撮るイメージで)、両手で上下から叩く。 ↓ ALT: Hi, OO-sensei. This is my 'Happy Parfait (自分のパフェの名前)'. I have strawberries, bananas, peaches, pineapples, melons and vanilla ice cream. I like strawberries. How about you? HRT: Wow! Nice Parfait! Rika-sensei, this is my " (自分のパフェの名前)". I have (入っているもの). ALT: Oh, wow! It looks really good! ↓ HRT/ALT/Ss: Cut! (映画のワンシーンを撮り終えたイメージで)、両手で上下から叩き、終了。	PPT スライド HRT: ご自身のパフェの画像をご準備ください
サブ活動 (7分)	5. 【Let's get ready】 メインの活動の導入・練習	今日のみあてにつなげます。 「オリジナルパフェを紹介しよう！」 板書し、クラス全体で音読させます。 <Step1> TT: まずは、自分のパフェを紹介する言い方を確認しましょう！(リピート→席に座ったまま各自練習) Hello. This is my (パフェの名前). I have (入っている物の紹介). I like (入れた物の中で好きな物). <Step2> TT: ペア(横隣り)と、自分のパフェを紹介し合おう	PPT スライド 板書用カード (会話練習用)
メインとなる活動 (12分)	6. 【Let's play】 お友だちのパフェをオーダーしてみよう！  正面 	<Step3> TT: 机合わせてグループをつくる(4~5名程度)。グループメンバーのパフェを表示させたパフェを机に並べる。グループを店員役と客役に分ける。客役は、自分のグループ以外のグループのお店に出かけ、パフェをオーダーする(最低1~2つ)。(未定: オーダーしたパフェの名前、特徴をワークシートに記入する) - やりとりの例 S3: What do you want? S4: I want 'No.1 parfait'. S3: OK. Here you are. Do you like peaches? S4: Yes, I do. Thank you. S3: Thank you.	児童: タブレット(各自、授業前に作成したパフェの画面をすぐに出せるようにサポートをお願いします)
ふり返り (4分)	9. 今日の活動をふり返り、感想を発表する。	・ふり返りの発表者を指名し、発表させる。 ・児童の良かったところなどを称賛する。	
Closing (3分)	11. Closing 今日のリーダーが前に出て、クラスに号令をかけ、終わりのあいさつをする。	・リーダー(日直)を前に募る。 ・児童の支援を行う	

※毎時の質問 ①How are you today? ②How is the weather today? ③What day is it today?

※3ルール ①Listen carefully. ②Help each other. ③Have good manners.

【2年生】

特に自ら進んでコミュニケーションをとろうとする姿がみられた activity

すごろくやカードゲーム、ドンじゃんけんゲームなど、多様な学習活動を通して、英語に慣れ親しみ、楽しく活動することができた。



英語の時間で作ったクリスマスツリーを掲示して、教室もクリスマスの楽しい雰囲気に！

クリスマスにまつわる言葉を学んだり、クリスマスの歌を歌ったりしながらオリジナルのクリスマスツリー作りを楽しみました。



HRT も楽しく Challenge! 英語学習姿勢のモデルとなります。(クリスマスじゃんけん)



Present, angel, bell, ornament, Santa... .
楽しみながら文化や英単語を覚えていきます。

【3年生】

特に自ら進んでコミュニケーションをとろうとする姿がみられた activity

“This is for you.”の単元では、ゲーム、ペア活動を交えてスモールステップ学び言い方を覚えた。単元末では、color×shape×numberを意識してイラストを作製し、自分のイラストの説明を一生懸命に英語で伝えようとする姿が見られた。

3年生になると理解できる英単語量も増えてきているため、英語を活用する活動を増やすことでさらにコミュニケーション能力向上を目指します。

友達と話し合ったり、協力したりして楽しく活動を行いながら、目標とする力を身に付けられるように授業構成を工夫しています。

めあて: えい語でじこしょうかいをしよう!
緊張しながらも、前に出て堂々と発表することができました。



授業参観では、保護者へも積極的に質問♪
“What color do you like?”



【4年生】

特に自ら進んでコミュニケーションをとろうとする姿がみられた activity

“What do you want?” では、タブレットを活用しながらオリジナルパフェを作った。次時では、店員と客に分かれ” What do you want? ” ” I want～.” のやりとりを楽しみながら会話に慣れ親しむことができた。



I want strawberries,
pineapples,…….

“Phonics” ALT ウィル先生

毎時間始めの3分に、英文字と音をつなげて覚える指導方法“Phonics”を実施。お手本を繰り返し真似て、視覚・聴覚・自分の発音をリンクさせて体得できるように取り組んでいます。

♪“あごを下げて a, a”

去年は、ワークシートを使用した授業でしたが、今年からは ICTも盛り込み、バージョンアップした授業となりました。



“Hello, may I help you?”
店員と客に分かれて英会話でやりとりをしました。



【5年生】

特に自ら進んでコミュニケーションをとろうとする姿がみられた activity

“I'd like pizza.” 「オリジナルメニューを作ろう」では、料理や値段を自分で決め、注文のやり取りをする中で、楽しみながら英語表現を学ぶことができた。

タブレットを活用した授業展開：Lesson4 This is my dream day の授業風景写真。
夢の1日について、端末を使用し個々にスライドを作成、電子黒板に投影しクラスメイトの前で自分の思いを英語で伝える活動をしました。

どの児童もジェスチャーなどを交えたり、堂々と話していました！



伝えたいことをどう伝えるか。「外国語」では単に英語を身に付けるだけではなくコミュニケーション能力の素地を養います。



Waaao… !!

児童の主体性を尊重し、HRT、ALT はタイミングを見計らって声掛けをします。



【6年生】

特に自ら進んでコミュニケーションをとろうとする姿がみられた activity

Lesson 7 「My Best Memory」では、単元のゴールを「友達と小学校の最高の思い出について伝え合おう」と設定した。ここでは、My Best Memoryとして、運動会や修学旅行などの学校行事を答えるだけでなく、自分にとって最高の思い出である理由を考え、同じ行事を選んだとしても、一人一人印象に残っている場面が違ったり、その時の気持ちがあったりする。このように自分の思いを互いに伝え合う活動を通して、自分自身の考えを深め、どのように表現したらよいか、児童同士が互いに助け合いながら取り組むことができた。



単元を通してスモールステップで学び、様々なペアで練習を重ねながら、自分なりにどのように表現できるか学んだ。

話す側は、相手意識を持ち、内容や伝え方を考えて自分の意見を相手に伝えます。聞く側は、聞き方(あいづちやリアクション、質問など)を意識します。目的を明確にした「やりとり」を通して、英語コミュニケーションが身に付いてきました。



タブレットの Meet 機能を使い、志真志小の児童とオンラインで交流した。

グループに分かれてお互いにこれまでに学んで事を生かして、自分の考えや気持ちを伝えようとする姿が見られた。

(3) 成果と課題

低学年

- 授業の流れが“HELLO SONG”⇒復習⇒めあて⇒練習と一連化しているので子ども達もスムーズに授業に参加できた。
- 子ども達は英語の授業を楽しみにしており、ALT/JTEの発音を真似しながら意欲的に取り組むことができた。
- 活動内容や教材の工夫がされているので、楽しく英語を話すことができた。
- phonics やモジオトなどを通して、アルファベットの発音の聞き取りができるようになってきた。
- 前年度（1年～2年）の学習内容を系統立てて学習しているため、単語を覚えている子が多い。
- 1時間の活動内容が多くて、めあてのふり返りが書けないことが多々ある。
- ゲームに夢中になり、英語で話すことを忘れてしまう。
- コロナ禍でゲームやペア活動などに制限があった。

中学年

- 他校から来ると、児童の発言が多く意欲的で恥ずかしさがない。これは1年生から継続的に英語に取り組んでいる成果と言える。
- 小単元を設定し、目標を明確にしてスモールステップで毎時間積み重ねていくことにより、単元目標を達成できた。
- 児童の興味や関心を高めるために教材教具を工夫していた。
- ALTの日本語での説明が長く児童の activity の時間が十分に確保できないことがあった。
- 授業のレベルについていけない子もいる。
- 単語は言えるが、文は言えない。

高学年

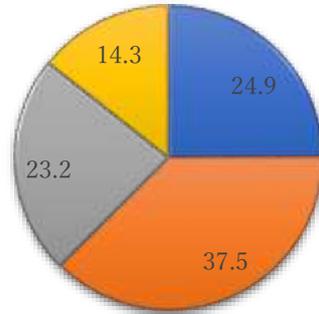
- ペア学習を多く取り入れることで、児童が英語表現に慣れ、自信をもって発表することができた。
- ALTによるゲームや読み聞かせ等の活動により、教科「外国語」への移行がスムーズだった。
- 教師は、相手に分かりやすく伝えるために、話し方と話す内容の工夫をするよう指導した。児童は、相手の理解を確認しながらはっきり話すこと、相手の立場や考えに合わせて話す内容を考えることの必要性に気づくことができた。
- 教師は、ICT 機器を活用して、他の学校の児童とオンラインで伝え合う活動を実施することができた。児童は、やり取りにおいて、話し手、聞き手として必要な話し方や態度など体験から学ぶことができた。
- 児童が相手意識をもって活動するために必要な指導が十分ではない。
- 単元によって難しい単語や表現があり、抵抗を感じる児童が見られた。

(4) 課題に対する対応策

- ・相手の言葉や表現を受け取る聞き手の指導の充実
- ・目的に対して自分に必要な学習を児童自分自身で考える指導の充実
- ・学年フロアを活用して、授業で使っている英語カードを常時、目に入る所に掲示しておく。
- ・授業のテンポやタイムマネジメントを意識する。
- ・メインの活動を中心に授業構成を工夫する。
- ・HRTまたはALTが困っている子のフォローに入る T.T. 体制を整えたり、英語が得意な子をペアにする。
- ・低学年は振り返りシートの修正をする。（顔マークに丸を囲むだけにするなど）
- ・ゲームのルールを徹底して取り組ませ、適宜声掛けをする。
- ・少人数のグループで活動させる。

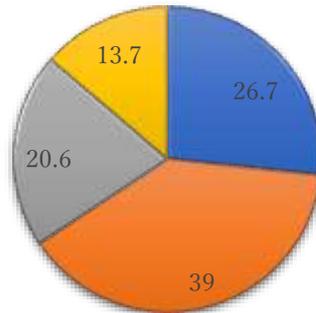
5. 外部評価

お子さんは学校の英語の授業について話をする。



■とてもあてはまる ■ややあてはまる ■ややあてはまらない ■あてはまらない

お子さんは英語の授業がよくわかると言っている。



■とてもあてはまる ■ややあてはまる ■ややあてはまらない ■あてはまらない

英語に関する保護者の意見として、「お子さんは学校の英語の授業について話をする。」という質問に対して「とてもあてはまる」「ややあてはまる」と答えたのは全体の 62.5%であった。また「お子さんは英語の授業がよくわかると言っている。」という質問に対して「とてもあてはまる」「ややあてはまる」と答えたのは全体の 65.7%であった。この結果より、半数以上の児童が英語学習に意欲的に取り組み、理解をしていることがわかった。一方で、英語の理解が難しい児童や苦手意識のある児童も一定数いる。

今回は保護者アンケートのみの実施であったため、次年度は児童アンケートも実施・分析し、具体的な授業改善につなげていく。